「日々の理科」（第 1135 号） 2017（H29）,-8,15

「北極圏旅行記 2017 夏（20）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

～7 / 29 スールヴォーゲンの滞在（２）～

夕方、予約しておいた Maren Anna（マレン・アンナ）というレストランに出かけた。

驚いたことに、このレストランでは日本人の青年が働いていた。リザーブド・カードにも、私の名前が漢字で書いてあった。おかげで、よくわからないメニューのことも彼に聞けて、ベストチョイスの注文をすることができた。

Maren Anna（マレン・アンナ）は、漁港のそば・・・というより、漁港にあるレストランだ。せっかく窓際の席を確保しておいてくれたが、私はテラスの港が見える席に替えてもらった。最初に、メニューにはないサラダを注文した。このあたりでは生野菜は貴重品なので、なかなかお目にかかれない一品なのだ。

テラス席からはこんな眺めが楽しめる。湘南に行っても、なかなかこんなレストランはないだろう。すでに午後７時ごろがだ、まだ太陽は高く、夕食を楽しんでいるという気分ではなかった。

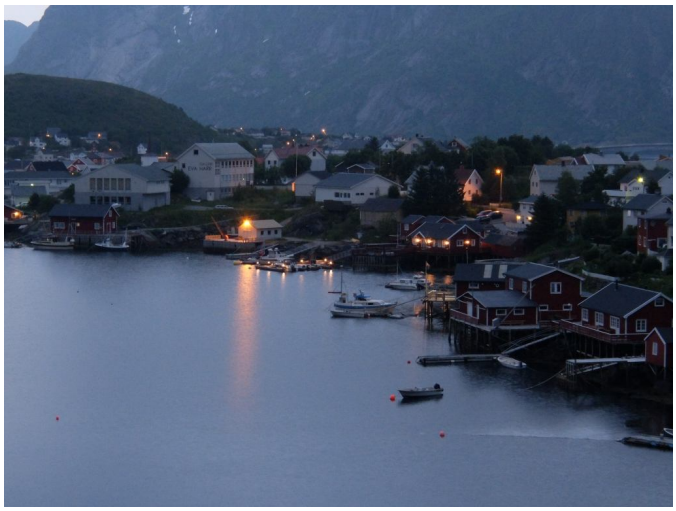
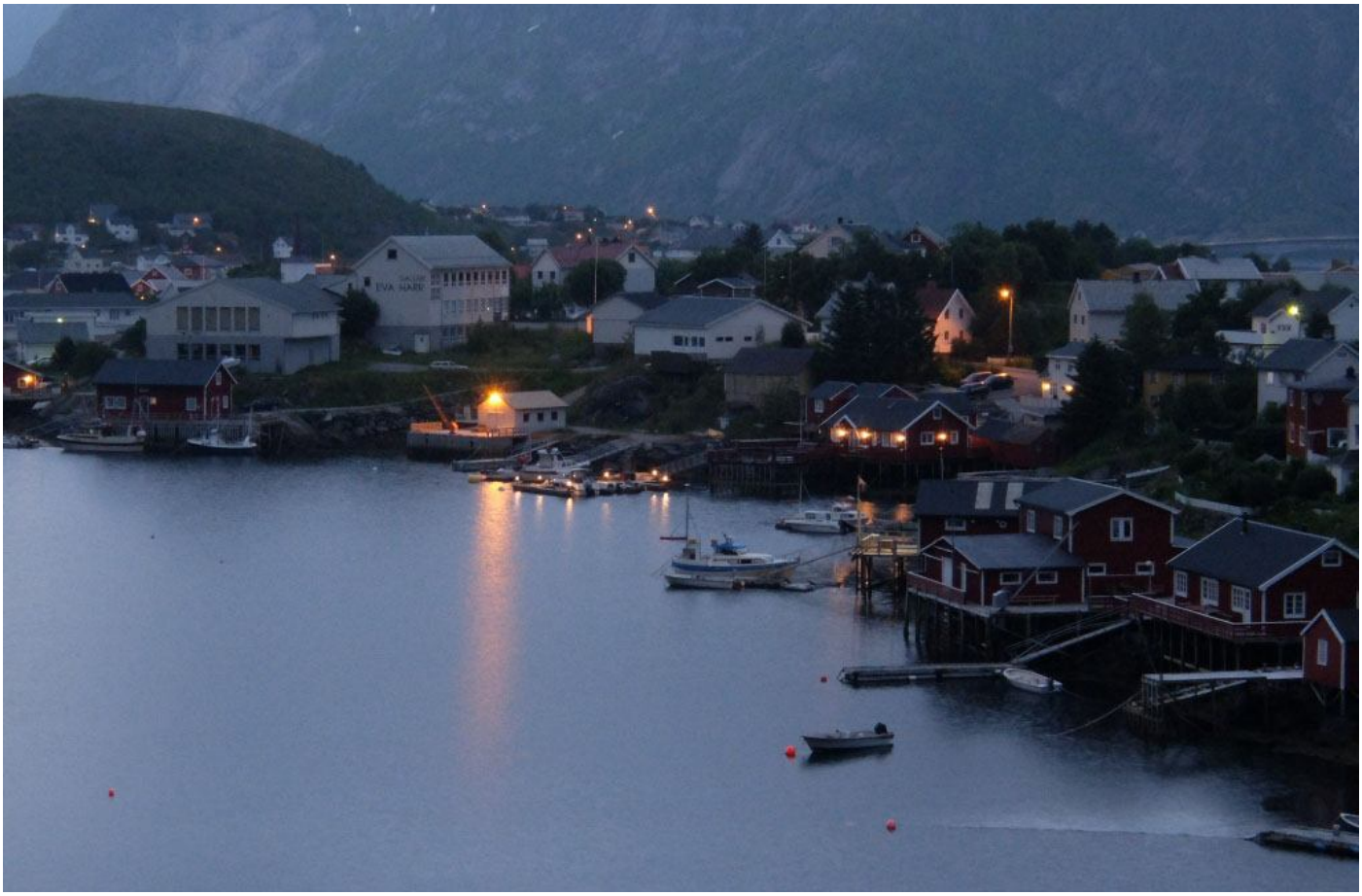
この地方の特産物は海産物、特に干し魚である。このレストランのメニューも魚料理が中心だ。コース料理というのはないが、お店の人に頼んで、フルコースにしてもらった。

サラダの次は、魚介スープを頼んだ。まず海外のレストランではどこでもそうだが、とにかく量が多い。このスープも、３～４人前といったところで、グループで一皿頼めば十分という感じだ。それにしてもおいしい。こんな魚介スープはいままでに味わったことがなかった。

メインはもちろん魚料理にした。「本日の魚料理」と「干し鱈の料理」だった。これも爆発的に量が多く、しかもおいしかった。このほかに、パンと特製味付きバターが食べ放題で、最後は立ち上がれないほど満腹になった。

このレストランは宿舎のレセプションも兼ねているので、レジで食事と宿泊費の合計を支払うことができ、大変有難い。

食事が終わるころには、陽も少し傾き、太陽もフィヨルドの岩峰に隠れようとしていた。宿舎に帰って少し休み、真夜中にもう一度出かけることにした、レイネの夜景の撮影に出かける為だ。

ここはおよろ北緯 68°の土地である。白夜の時期は終わっているが、真夜中でもまだ外は明るい。他の宿泊客に迷惑をかけないように、静かに宿を出た。

天気は悪化し小雨も降っていたが、夕暮れのレイネは、幻想的な美しさと静寂に包まれていた。あれだけ賑わっていた観光客も誰もいない。自分なりに満足できる写真が撮れた。（３ページ目に拡大画像あり）